

ドローンを活用した水稻生育診断

【平成30年8月2日掲載】

庄原市の山内自治振興区米づくり研究会（市川基矩（いちかわもとのり）代表）は、ブランド米「里山の夢」（品種：あきさかり）を生産しており、おいしさを競うコンテストで日本一を獲得したこともあります。平成22年に1.7haで始まった取組は、現在約50haにまで広がっており、収量・品質のさらなる高位安定化を図るため、各ほ場の性質にあった適切な管理が必要となってきました。

今年度はドローンを活用して、ほ場を上空から撮影した画像を解析することで、水稻の生育状況を的確に把握することが可能かどうかの実証試験を行っています。同研究会は7月24日にドローンによる撮影作業を確認するとともに、6月に撮影した画像解析の結果に係る研修会を行いました。

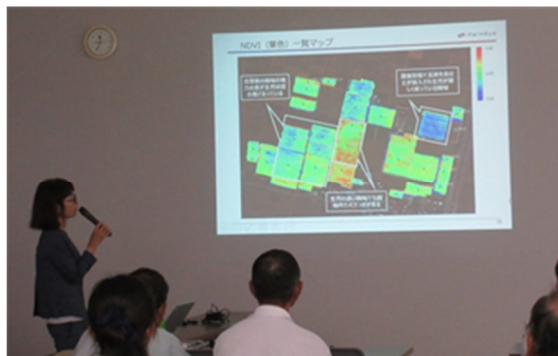
研修会では、当所から「人による生育調査データ」と「ドローンによる撮影データ」に相関関係があること、上空から撮影することにより、ほ場の生育ムラを的確に把握できることを報告しました。また、撮影を実施するファームアイ株式会社（大阪市）からは、「篤農家の目」を「ドローン撮影」が代替するICT技術であること、新たに開発した画像解析技術により、ほ場間の比較や年次間の比較が可能になったことの説明がありました。



ドローンによる撮影を見学



ドローンの構造を見学



ファームアイ(株)による撮影画像の説明

情報提供元

北部農業技術指導所